



こころが 変わる

おやさま
教祖は、

「心とはころと変わるから心と言うのや」
とお教えくださいました。(註)

雨の日に大鍋と茶碗を並べて置いてみた
としましょう。同じ雨の恵みを与えられて
も、大鍋と茶碗では受ける雨量が異なりま
す。天の理(恵み・守護)は等しくても、受
ける器(人間の心)のあり方で姿は変わって
くるのです。

日常のささいなできごとにも、どのよう
な心で受け止めるのか。その積み重ねで、
人生は大きく変わってきます。

さらに、大きな心を定めたら、自分の都
合で変えない誠実が大切です。ところが
人間は心を自由に使えることから、自分に
都合よく、ころと変わることがあります。

(註) 引用元：天理教兵庫教区布教部編「かしの・かりものの理を学ぶ」(立教一五八年刊) 六二頁より

いま、でハとんな心でいたるとも

いちやのまにも心いれかゑ (二七号14)

しんぢつに心すきやかいれかゑば

それも月日がすぐにうけとる (二七号15)

しかし、人間心のはかなさは、折角、

てびきを頂いて、心を定めても、時がた

てば、一旦定めた心もいつのまにか動

いて、形ばかりの信心におち、知らず

識らずのうちに、又もや、親心に反す

る心を遣うたり、行をしたりして、し

かも、氣附かずにいる場合が多い。

(天理教教典第六章「てびき」より)

親神様に向かつては、真実心を変えず、成
つて来ることの受け取り上手にならせてい
ただきたいものです。

本島大教会布教部(成)



天理教本島大教会

教祖140年祭